

1 単元名 球技 ネット型(バレーボール)

2 単元の目標

- (1) 次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。
イ ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元について

(1) 教材観

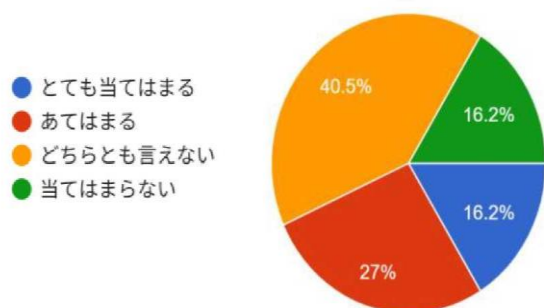
バレーボールは、ネットを挟んで分かれた2つのチームが、相手からのボールを味方のコートに落とさず、サーブやレシーブ、トス、スパイク等の技術を駆使して得点を競い合うスポーツである。バレーボールはボールを保持することができないため、ボールの行方を予測して素早く落下地点に移動して、味方が次のプレイをしやすいパスを出すことが求められる。バレーボールの経験が少ない生徒にとって、限られたタッチ数を有効に使いながらこのような動きをすることは非常に困難である。また、自身のミスが即失点につながってしまうため、消極的なプレイになってしまう生徒も多い。しかし、味方とコミュニケーションをとり、カバーし合うことで協力することの大切さを学んだり、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしたりすることでスポーツを通じた共生社会の実現という目標に迫ることができる教材である。

(2) 生徒の実態

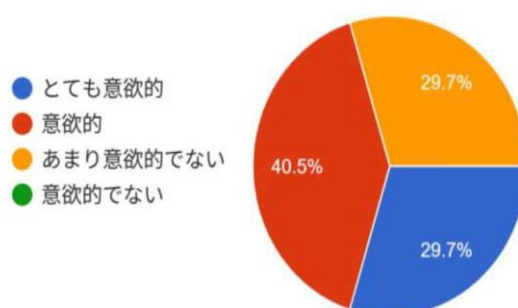
本単元の受講生徒数は、*組男子 * 名、*組男子 * 名、計 ** 名で、昨年度、全員がバレーボールを履修している。事前アンケートによると、技能面で「自信を持ってプレイできる」と答えた生徒の割合は43.2%で、1分間にアンダーハンドとオーバーハンドを交互に20回続けられる生徒の割合は21%であった。また、「バレーボールの授業にあまり意欲的でない」と答えた生徒の割合は29.7%であった。

2時間目の練習ゲームでは、ルールが曖昧な生徒が多く見られた。ほとんどの生徒が楽しそうに活動しているものの、ゲームの中でコミュニケーションを取ってカバーし合ったり、次の人がボールを扱いやすいようにパスをしようとしていたりしている生徒は少ない。また、ミスをしてしまった生徒に対してマイナスの言葉掛けをしている生徒もいるなど、一人一人の違いを大切にするなどの共生の意識について課題がある生徒もいる。

バレーボールの試合中に自信を持ってプレイできる
37件の回答



バレーボールに対して意欲的である
37件の回答



(3) 指導観

本単元では、学び直しとしてのポイントの説明や、選択制の個人練習、チームの課題に応じたグループ練習を通して技能の定着を目指し、毎時間ゲームを実施することで、自身とチームの課題の状況を振り返ることができるようにする。また、オリエンテーションの際に、主体的に学習に取り組む態度のうち、「共生」を重点として授業を実施していくこと、加えて評価方法については、学習カードの記述の内容や活動場面における行動や言動を観察することによって行うことを説明する。さらに、必要に応じて ICT を効果的に活用し、遅延再生や動画視聴、撮影等によって学習を深めていく。話し合いの場面では、各グループにホワイトボードを配布し、課題を列挙したり、マグネットを動かしたりすることで思考の可視化を図る。

4 単元の評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①球技では、各型の各種目の局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることについて、言ったり書き出したりしている。 ②競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて、学習した具体例を挙げている。	○技能 ①ボールを相手側コートに守備のない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。 ②ボールをコントロールして、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができる。 ③ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができる。	①チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘している。 ②体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けている。	①一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。 ②危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。

5 指導と評価の計画(10 時間扱い)

時		1	2	3	4 (本 時)	5	6	7	8	9	10
学 習 の 流 れ	0	オリエンテーション	○健康観察 ○本時のねらいと内容の確認 ○準備運動								
	10	学習の進め方の確認	○ 2 人組W-up ・ サービス練習 (次の人がボールを扱いやすいパス ・ コントロール重視のサービス)						○グループ練習 グループごとにローテーション	○グループ練習	
	20	学習カードの活用	○レシーブ ・ 2 人組 ・ 対面	○技能習得のポイントの説明 ・ アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、サービス、スパイク			○グループ練習 グループごとにローテーション ①ネット利用 サーブ、スパイク	①ネット利用 サーブ、スパイク ②ネット利用無し レシーブ、トス	○ゲームⅡ ・ リーグ戦 ・ ルールの確認 (ルール統一)		
	30	実態 (習得技能) の把握	○円陣パス ・ グループ	○個人の課題に応じた練習 ・ パス、サービス、サービスカット、スパイクの 4 つから選択			②ネット利用無し レシーブ、トス	○ゲームⅠ ・ ルールの確認 (ルール統一)	役割分担 ・ 運営 ・ 記録 ・ 審判 ・ 応援／撮影		
	40	グループ編成	○試しのゲーム ・ ルール確認 ・ I C T 活用 (個人とグループの課題を把握)	○簡易ルールのゲームⅠ (チームの課題に応じてルールを設定) ・ ネットの高さ、コートの広さ ・ 人数 ・ サービスミス、フォアヒットを可 ・ ローテーションの有無			○簡易ルールのゲームⅡ (チームの課題に応じてルールを選択) ・ 複数のルールから選択して簡易ゲームを行う		(役割分担) ・ 運営 ・ 記録 ・ 審判 ・ 応援／撮影		
	50	次時の確認		本時のまとめと話し合い							振り返り
	60	健康観察	○学習の振り返り ○次時の確認 ○健康観察								単元のまとめ
評 価 の 機 会	知			①記述					②観察		総 括 的 評 価
	技					①観察		②観察		③観察	
	思					①観察	②記述				
	態		②観察		①記述						

6 本時の展開(4 / 10 時間)

(1) 本時の目標

- 一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすることができるようにする。
(学びに向かう力、人間性等)

(2) 準備・資料

- ・ バレーボール、得点板、学習カード、筆記用具、ホワイトボード、タブレット、タイマー、電子黒板

(3) 展 開

時間	学習内容と学習活動	教師の指導・支援（◆評価規準と方法）
導入 7分	1 整列、挨拶、健康観察 2 本時の課題の確認	・健康観察を行い、活動場所の安全を確保する。
	一人一人の違いがある中で、どうしたらバレーボールをより楽しむことができるだろうか。 ・学習カード活用	・前時までの学習内容を確認するとともに、本時の課題と身に付けたい力について確認し、学習の見通しをもてるようにする。（技能面の課題を確認） ・共生の視点を踏まえて建設的な発言や働きかけの大切さについて確認する。
展開 45分	3 準備運動 ・各グループで実施 4 2人組W-up・サービス練習 ・2人組、対面 ・場合によっては学習カードで技術のポイントを確認する。 5 レシーブの確認とトスの練習 ・各グループ ・次のプレイにつながる練習方法や技術のポイントを学習する。 6 個人の課題に応じた練習 ・場の設定 対面パス・サーブ・サーブカット・スパイクの4つから選択 ・各活動場所での練習 7 簡易ルールでのゲーム ・複数の簡易ルールの中からホームチームがルールを選択し、そのルールで試合を行う。 例) サーブミスは一度のみ可、フォアヒット可（4タッチ）、リベロ可、ローテーション無し、ネットの高さを変更する等 ・個人やチームの課題を捉えやすくするために、タブレットで動画撮影する。	・主運動につながる運動になるように声を掛ける。 ・見学の生徒は、体調に応じて、得点係や撮影係、話し合いに参加するように声を掛ける。 ・パスの練習では、隣のペアとの間隔を十分に取り、安全に活動ができるよう声を掛ける。 ・サービスの練習ではフラットマーカを目印として設置し、強さよりもコースを意識するように声を掛ける。 ・個人技能に課題がある生徒には、学習カードの技能習得のポイントを確認してもよいことを助言する。（トスでは落下地点に入る、額の前でボールをとらえる。レシーブでは次の人がボールを扱いやすいような返球を心掛ける等。） ・各グループを巡回しながら、できるようになった技術をほめ、自信をもたせる言葉をかけながら、ミスを恐れない雰囲気づくりを促す。 ・課題に応じた場が選べない生徒には、課題の確認をすることで、適切な場で活動できるようにする。 ・課題が変化した生徒には、場の変更を促し、新たな課題に挑戦できるようにする。 ・複数の簡易ルールの中からホームチームがルールを選択し、そのルールで試合を行う。 ・ミスに対してマイナスな言葉掛けをしてしまう生徒に対しては、本時の課題を問い直すことで、発言の改善を促す。
まとめ 8分	8 本時のまとめと話し合い ・タブレット、ホワイトボードを活用する。 9 学習の振り返り ・学習カードに記入する。	◆一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）【記述】 ・各チームで簡易ゲームを振り返り、全員がバレーボールを楽しむための工夫について話合うように助言する。 ・話し合いのまとめをもとに、自分が大切にしようとした行動やプレイなどとその理由を具体的に記入するように声掛けする。 ・記入が進まない生徒には、例文を参考にしてもよいことを助言する。 例) ・〇〇を工夫することで、△△できるようにした。 ・〇〇の人が楽しむことができるようにするために、△△を意識した。
	10 整列、挨拶、健康観察	・学習カードを回収する。

バレーボール学習カード

年 組 番 名前

班

【学びに向かう力、人間性等】

・「一人一人の違いに応じたプレイを大切にしようとする」とはどのようなことか。

()ことができるようにするために、()や()の程度、性別や()の有無等に応じて、チームや個人の状況に合った実現可能な()の設定や()及び()の仕方や()の修正などを大切にしようとする。

・「一人一人の違いに応じたプレイを大切にしようとする」ことはどのようなことにつながるか。

・現在及び卒業後に()環境をつくること ・スポーツを通した()の実現

・全員が楽しむことができるようにするために、自分が大切にしようとした行動やプレイなどとその理由を書こう。

【知識】・技能のポイント

アンダーハンド	
オーバーハンド	
サーブ	

・試合中ボールを持たないときに意識したいこと

--

【思考力、判断力、表現力等】

個々の違いに関する課題(1つ)	ルールの調整のアイデア	その理由	課題の設定や挑戦および練習の仕方	コメント

	どのように改善・修正するか	MEMO
3回目を終えての自分の課題		
5回目を終えてのチームの課題		
7回目を終えての自分の課題		
8回目を終えてのチームの課題		